

DDX-Sub W. G. 議事録

1. 日 時 昭和58年9月1日(木) 13:30~17:00
2. 場 所 原研東海研 研究2棟 222号室
3. 出席者 9名(敬称略, 順不同)
中沢, 井口(東大), 菊池, 山野, 関(原研), 南(富士通), 中田(川重), 土井(IHI), 梶山(東北大)

4. 議 事

- (1) 前回議事録確認等(資料 FSD-83-1)

- (2) DDXプロット作業用計算コードの整備状況

南委員より FAIR-DDXのマニュアル(資料 FSD-83-2)の説明がなされ, 一部の語句の修正と出力ファイルの図形表示プログラムのマニュアルも付け加えることと了承された。

次に, 井口委員より DDXPLOTのマニュアル原案(資料 FSD 883-3)が示され, 内容の検討が行なわれた。その結果, 説明文の一部修正・追加の他, 入力データの簡略化(デフォルト値の設定)などの指摘があり, 9月中旬までに改善することとなった。

又, 山野委員から図形処理プログラム VISUALの使用法(資料 FSD-83-4)について具体的な説明が行なわれた。

- (3) DDXプロット作業の今後の進め方について

DDXプロット作業用の計算コードの整備に伴い, 核種および作業分担について, 検討がなされた。その結果, 当面 FNS実験解析用の6核種 Fe, Cr, Ni, Li, C, O を対象に, 阪大 OKTAVIANで測定された, 実験値と ENDF/B-IV, JENDL-2, JENDL-2.5 から作成される DDX 計算値との比較プロットが下記の分担で行なわれることとなった。

Fe-菊池, Cr-中田, Ni-土井, ^6Li , ^7Li -井口, C, O-大山。又, 作業日程として, 10月末までに各人が一通りのデータ処理を経験することが取り決められた。

- (4) 東北大における DDX 測定の現状(資料 FSD-83-5)

梶山氏より東北大学での DDX に関する実験内容や幾つかの測定および解析例が報告された。又、東北大グループの DDX 実験データや資料の提供、EXFOR フォーマット類似の統一様式でのデータファイル作成および東北大グループによる DDX プロット作業用計算コードの利用の件について話し合われた。